

# コリント 第一

16

## 「究極の希望を 胸に抱いて」

コリント人への手紙 I 15章 メシアと信者の復活

# アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. メシアの復活は事実 1～11節
- II. 復活の否定は愚か 12～28節
- III. 復活こそが終着点 29～58節
- IV. まとめと適用

復活の希望を抱きつつ歩もう



## コリントの手紙とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …55年頃。 **第3回伝道旅行**の途中
- **執筆場所** …長期滞在中のエペソ  
この後、コリントを再訪
- **対象** …コリントのキリスト者たち  
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **執筆目的** …過ちを正し、信仰の成長を促す  
キリストの体なる一致を求める



海を挟んで約250km  
陸路を廻れば約1,000km

序文		1:1~9
罪の叱責	①教会内の分裂	1:10~4:21
	②罪に対する懲戒	5:1~13
	③裁判の問題	6:1~8
	④性的放縦の問題	6:9~20
質疑応答	①結婚	7:1~40
	②偶像に捧げた肉Ⅰ	8:1~,
	③使徒の権利	9:1~27
	④偶像に献げた肉Ⅱ	10:1~
	⑤礼拝における秩序	11:2~34
	⑥聖霊の賜物	12:1~14:40
	⑦復活	15:1~58
	⑧献金	16:1~12
あいさつ	<b>基本的教理 の確認 秩序の回復</b>	16:13~24



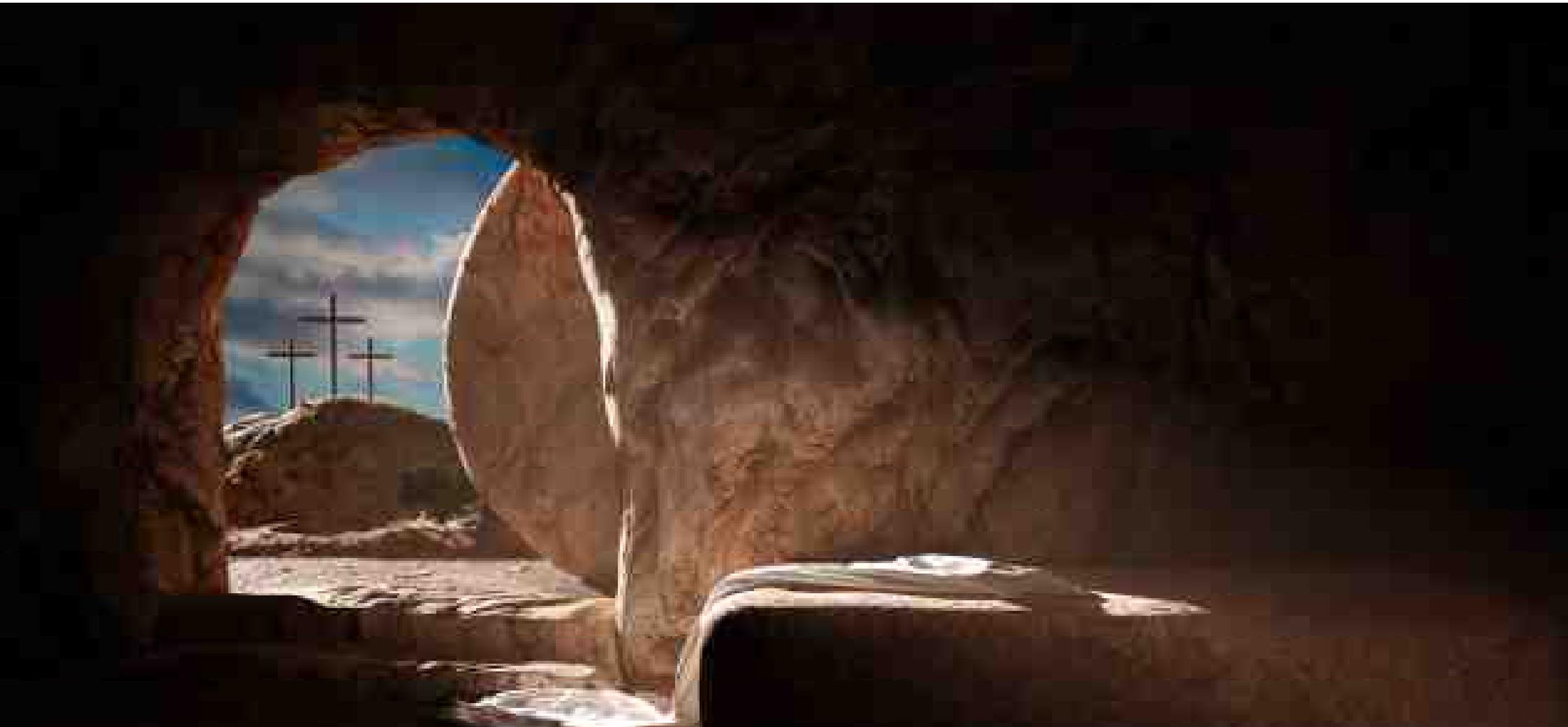
- 秩序
- 秩序
- 秩序
- 性
- 性
- 偶像
- 秩序
- 偶像
- 性
- 秩序
- 秩序
- 秩序

## 【コリントとコリント教会】

- アカヤ州(ギリシャ南部)の首都  
国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。  
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- 不道德の町。少年への性愛、複数の愛人。  
神殿娼婦の存在。偶像崇拜が蔓延。
- 異邦人信者が主流。偶像への警戒の薄さ。  
基本的教理からの逸脱。自由のはき違え。

パウロは何一つ  
難しいことは  
言ってない!!

基本的教理の確認・教会秩序の回復が急務



I. メシアの復活は事実

Iコリント15章1～11章

## 【福音】 1コリント15:1～2

兄弟たち。私があなたがたに宣べ伝えた**福音\***を、改めて知らせます。あなたがたはその**福音**を受け入れ、その**福音**によって立っているのです。

私がどのようなことばで**福音**を伝えたか、あなたがたがしっかり覚えているなら、この**福音**によって救われます。そうでなければ、あなたがたが信じたことは無駄になってしまいます。

\*エウアンゲリオン

“よい知らせ、よろこびのおとずれ”



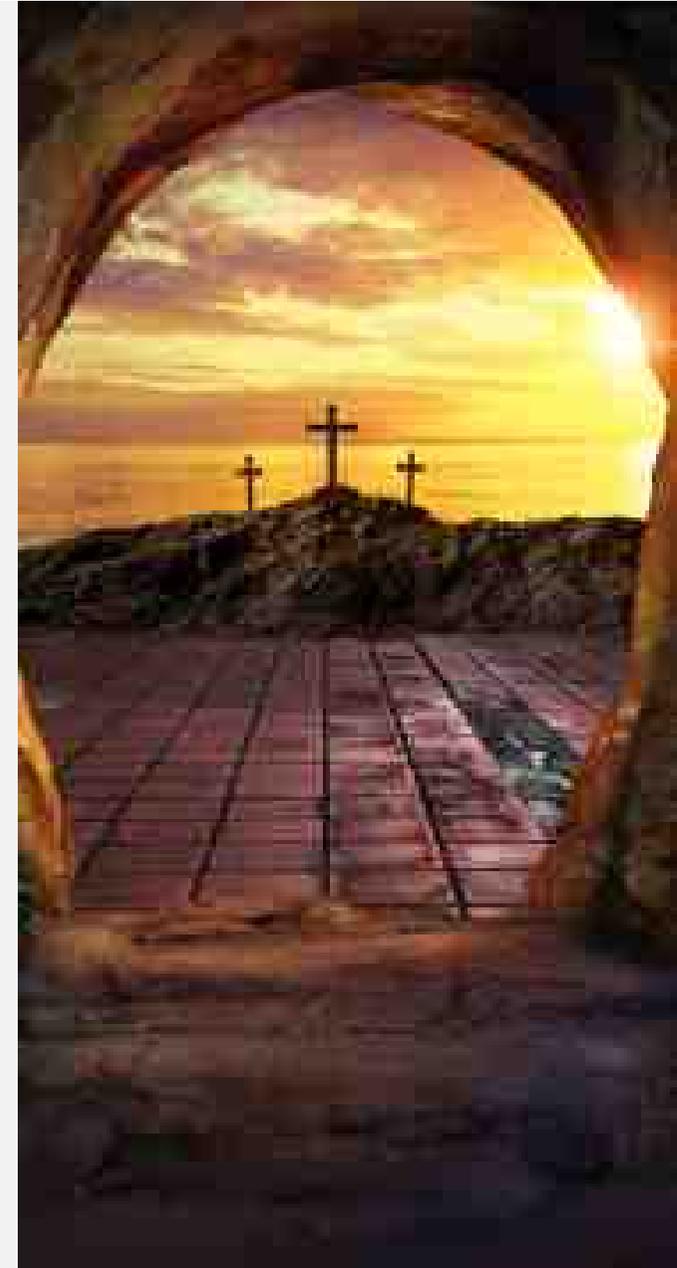
## 【福音の三要素】 Ⅰコリント15:3～5

私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、**①私**たちの罪のために死なれたこと、

また、**②葬**られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、**③三日目**によみがえられたこと、

また、ケファ\*に現れ、それから十二弟子に現れたことです。

\*ペテロ。十二使徒のリーダー。



## 【多くの目撃証人】 | コリント15:6~7

その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中にはすでに眠った人も何人かいますが、**大多数は今なお生き残っています\***。

その後、キリストはヤコブ\*に現れ、それからすべての使徒たちに現れました。

**\*この時点で多くの復活の生き証人がいた!!**

**\*イエスの兄弟ヤコブ**

**➡エルサレム教会のリーダーに。**



## 【使徒パウロ】 Ⅰコリント15:8～9

そして最後に、月足らずで生まれた者のような私\*にも現れてくださいました。

私は使徒\*の中では最も小さい者であり、神の教会を迫害したのですから、使徒と呼ばれるに値しない者です。

\*生前のイエスと行動を共にしなかった。

\*しかし、復活のイエスと出会い、イエスによって使徒とされた。

➔人間的価値判断とは無関係!!



## 【神の恵みによって】 | コリント15:10~11

ところが、**神の恵み**によって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの**神の恵み**は無駄にはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。働いたのは私ではなく、私とともにあった**神の恵み**なのですが。

とにかく、私にせよ、ほかの人たちにせよ、私たちはこのように宣べ伝えているのであり、あなたがたはこのように信じたのです。

■ **神の恵み**による使徒パウロが福音を宣べ伝え、福音を信じてコリントの信者は救われた。





Ⅱ. 復活の否定は愚か

I コリント15章12～28章

## 【復活を疑う者たち】 1コリント15:12~14

ところで、キリストは死者の中からよみがえられたと宣べ伝えられているのに、どうして、あなたがたの中に、死者の復活はないと言う人たちがいるのですか。

もし死者の復活がないとしたら、キリストもよみがえらなかつたでしょう。

そして、キリストがよみがえらなかつたとしたら、私たちの宣教は空しく、あなたがたの信仰も空しいものとなります。

■ 信者が復活することを信じない者たちがいた。



## 【復活なき虚しさ】 | コリント15:14~15

そして、キリストがよみがえらなかったとしたら、私たちの宣教は空しく、あなたがたの信仰も空しいものとなります。私たちは神についての偽証人ということにさえなります。なぜなら、かりに死者がよみがえらないとしたら、神はキリストをよみがえらせなかったはずなのに、私たちは神がキリストをよみがえらせたと言って、神に逆らう証言をしたことになるからです。

- 信者の復活を疑うことは、  
キリストの復活を疑うこと。



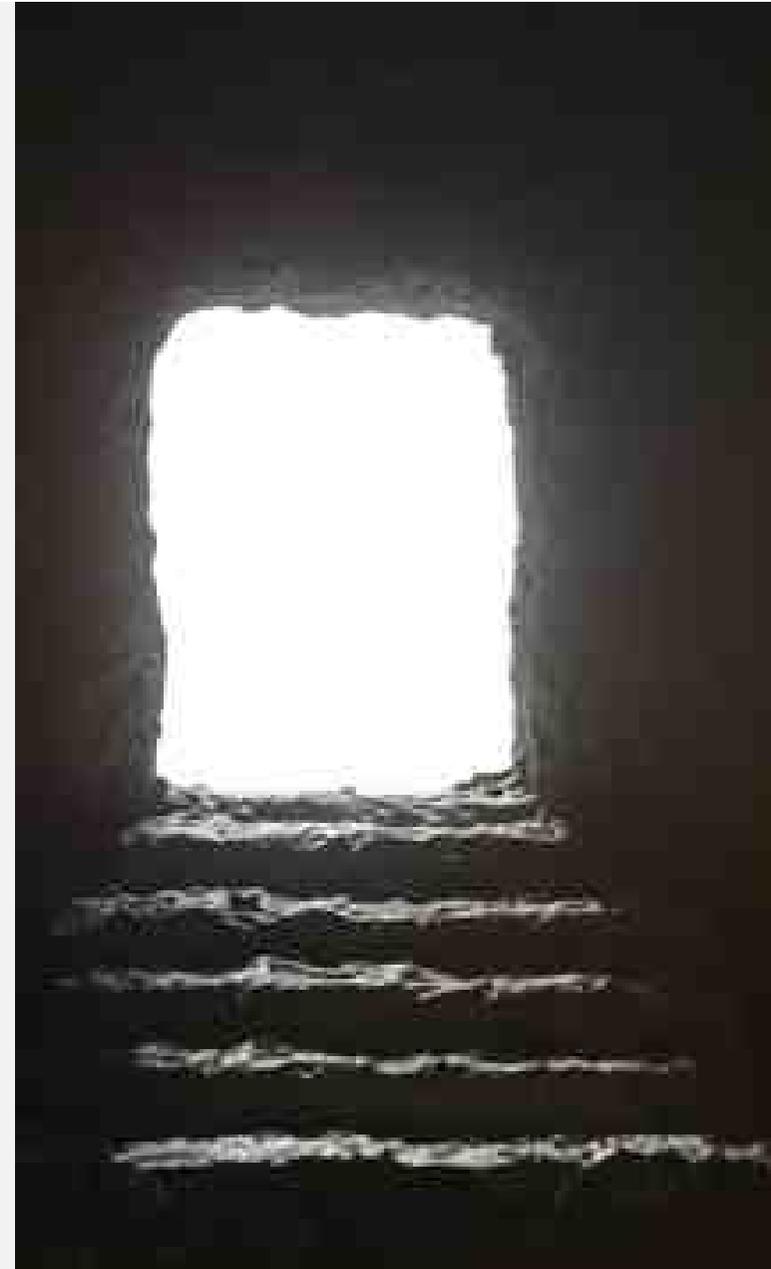
## 【復活がなければ】 | コリント15:16~18

もし死者がよみがえらないとしたら、キリストもよみがえらなかったでしょう。

そして、もしキリストがよみがえらなかったとしたら、あなたがたの信仰は空しく、あなたがたは今もなお自分の罪の中にいます。

そうだとしたら、キリストにあって眠った者たちは、滅んでしまったことになります。

- キリストの復活がなければ救いはない。  
復活がなければ、むなしただけ。



## 【初穂なるメシア】 | コリント15:19~20

もし私たちが、この地上のいのちにおいてのみ、キリストに望みを抱いているのなら、私たちはすべての人の中で一番哀れな者です。

しかし、今やキリストは、眠った者の初穂\*として死者の中からよみがえられました。

\*「初穂の祭り」の日にメシアはよみがえった。

➡大麦の初穂をささげる日(レビ23:10~11)

■初穂の後、続々と収穫が続く。

メシアの復活の後、信者の復活の時が来る。



## 【メシアもたらす復活】 1コリント15:21~22

死が一人の人を通して来た\*のですから、死者の復活も一人の人を通して来る\*のです。

アダムにあってすべての人が死んでいる\*ように、キリストにあってすべての人が生かされる\*のです。

\*アダムの罪により、人は死んだ。

死とは神との断絶。すべての人は死者である。

\*人となられた神、イエスの復活は、死への勝利。

信じた者を神に回復させ、永遠に生かす。



## 【復活の順序】 Ⅰコリント15:23～24

しかし、それぞれに順序があります。まず初穂であるキリスト、次にその来臨のときにキリストに属している人たちです。

それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、王国を父である神に渡されます。

- ①復活したキリストが、**再臨**される時、
- ②復活した信者たちも、共に地上に降り立つ。
- ③悪と不信者は一掃され、**神の国**が建設される。



## 【千年王国】 | コリント15:25~26

すべての敵をその足の下に置くまで、キリストは王として治めることになっているからです。

最後の敵として滅ぼされるのは、死です。

④キリストは、神の国を千年間統治(千年王国)

⑤最終的な裁きが下される(白い御座の裁き)

➡サタンと悪霊、すべての不信者が裁かれる。

死と陰府(よみ)も滅ぼされる。



## 【神の完全な秩序】 | コリント15:27~28

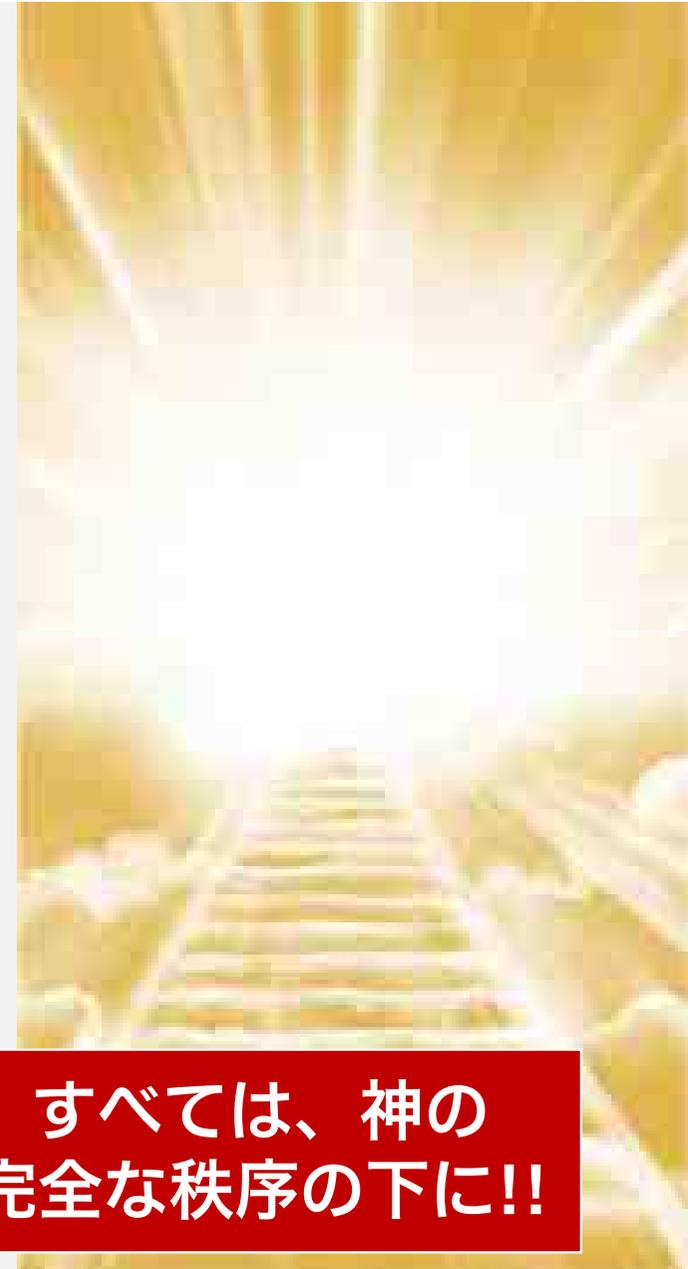
「神は万物をその方の足の下に従わせた\*」のです。しかし、万物が従わせられたと言うとき、そこには万物をキリストに従わせた方が含まれていないことは明らかです。

そして、万物が御子に従うとき、御子自身も、万物をご自分に従わせてくださった方に従われます。これは、神が、すべてにおいてすべてとなられるためです。

\*詩篇8:6

■ 父に御子が従い、御子に全被造物が従う。

すべては、神の  
完全な秩序の下に!!



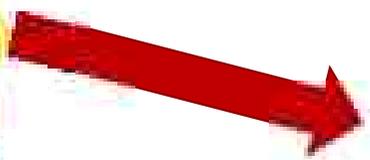
★図で見る黙示録★

【パラダイス】



【天上の礼拝】

4章



キリストの再臨



【千年王国】

20章4～25節



【新天新地】

21～22章5節

教会の携挙



聖霊降臨



【教会時代】

2～3章



【大患難時代】

5～20章3節

白い御座の裁き



ゲヘナ(地獄)



【シエオール(陰府)】



### Ⅲ. 復活こそが終着点

I コリント15章29～58章



## 【復活とバプテスマ】 | コリント15:29

そうでなかったら、死者\*のためにバプテスマ\*を受ける人たちは、何をしようとしているのですか。死者が決してよみがえらないのなら、その人たちは、なぜ死者のためにバプテスマを受けるのですか。

\*文脈では、死者とは、“罪人である私たち”

\*“浸す” …キリストとの“一体化”を示すもの。

■福音を信じて救われ、新生し永遠の命を得た。

復活がないなら、バプテスマは無意味。



## 【間近にある死】 | コリント15:30~31

なぜ私たちも、絶えず危険にさらされている\*  
のでしょうか。兄弟たち。私たちの主キリス  
ト・イエスにあって私が抱いている、あなたが  
たについての誇りにかけて言いますが、私は  
日々死んでいる\*のです。

\*パウロの遭遇した幾多の苦難。飢え、病気、  
盗賊、遭難、迫害…。(IIコリ11:23~27)

\*パウロの実感。信仰者だからこそ、日々、  
世にあって直面させられる死の現実がある。



## 【復活がなければ】 | コリント15:32~33

もし私が人間の考えからエペソで獣と戦った\*のなら、何の得があったでしょう。もし死者がよみがえらないのなら、「食べたり飲んだりしようではないか。どうせ、明日は死ぬのだから」ということになります。惑わされてはいけません。

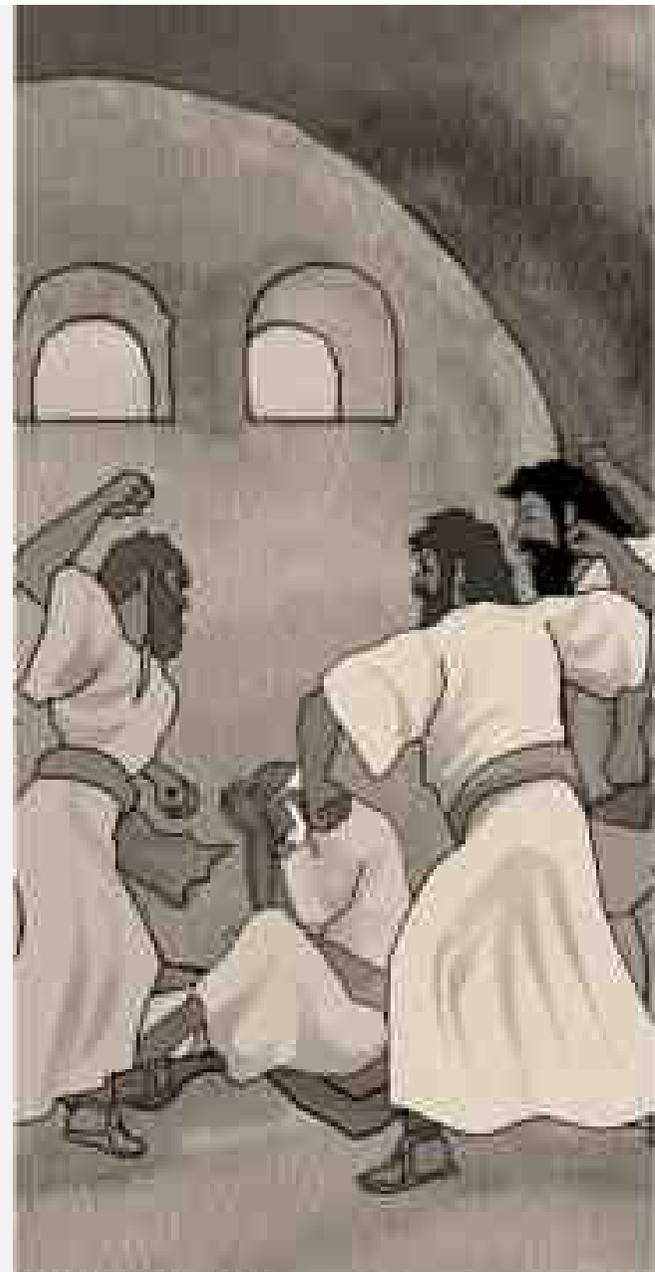
「悪い交際は良い習慣を損なう」のです。

\*アルテミス崇拝者の迫害か？ (使19:23~40)

事件から間もなくしてこの手紙は書かれた？

■復活がないなら、一切のことは無意味になる。

復活を否定する者は、決定的な墮落を招く。



## 【悔い改めの促し】 | コリント15:34

目を覚まして正しい生活を送り、罪\*を犯さないようにしなさい。神\*について無知な人たちが\*がいます。私はあなたがたを恥じ入らせるため\*に言っているのです。

\*復活を否定する罪

\*復活を否定する人たち

\*恥じ入り、悔い改め、正しい信仰に立ち返らせることこそ、この手紙の執筆目的。



## 【つまらない質問】 | コリント15:35~36

しかし、「死者はどのようにしてよみがえるのか。どのようなからだで来るのか\*」という人がいるでしょう。

愚かな人だ。あなたが蒔くものは、死ななければ生かされません。また、あなたが蒔くものは、後にできるからだではなく、麦であれ、そのほかの穀物であれ、**ただの種粒\***です。

\*貧相な発想。ゾンビのようなイメージ？

\*一粒の種が、まったく違うものに成長する。

復活の体も、蒔かれた肉体とは全く異なる。



## 【復活の体とは？】 | コリント15:38～39

しかし神は、みこころのままに、それにかからだを与え、それぞれの種にそれ自身のからだをお与えになります。どんな肉も同じではなく、人間の肉、獣の肉、鳥の肉、魚の肉、それぞれ違います。

また、**天上のからだ\***もあり、**地上のからだ**もあり、**天上のからだ**の輝きと**地上のからだ**の輝きは異なり、太陽の輝き、月の輝き、星の輝き、それぞれ違います。星と星の間でも輝きが違います。

**\*復活の体は、天の物質でできた天のからだ。**

**今の地上の体とは全く異なるもの。**



## 【御霊のからだ】 | コリント15:42~44

死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、朽ちないものによみがえらされ、卑しいもので蒔かれ、栄光あるものによみがえらされ、弱いもので蒔かれ、力あるものによみがえらされ、血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらされるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです。

- 復活の体は、不朽で、神の栄光と力に満ち、神の霊に属する、天の物質できた永遠の体。



## 【最初のアダム】 | コリント15:45~46

こう書かれています。「**最初の人アダム**は生きるものとなった。(創2:7)」しかし、**最後のアダム**はいのちを与える御霊となりました\*。

最初にあったのは、**御霊のもの**ではなく**血肉のもの**です。御霊のものは後に来るのです。

第一の人は地から出て、**土で造られた人**ですが、第二の人は**天から出た方**です。

\*神の霊(ルーアツハ・息)を吹き入れられて。

\*キリストを信じた者の内に聖霊が住まわれる。



## 【天に属するからだ】 | コリント15:48~49

土で造られた者たちはみな、この土で造られた人に似ており、天に属する者たちはみな、この天に属する方に似ています。

私たちは、土で造られた人のかたちを持っていたように、**天に属する方のかたちも持つ**ことになるのです。

- 土で造られたアダムと子孫も、同じ**肉の体**。
- 復活のイエスを信じ、新生した者は、天に属する栄光のイエスと同じ**復活の体**に。



## 【相続のための天の体】 | コリント15:50

兄弟たち、私はこのことを言っておきます。血肉のからだは神の国を**相続**できません。朽ちるものは、朽ちないものを相続できません。

「私たちはキリストと、栄光をともに受けるために苦難をともにしているのですから、**神の相続人**であり、キリストとともに**共同相続人**なのです。ロマ8:17」

■ 神の相続人である信者は、神の国の相続にふさわしい、神の国の体を与えられる。



## 【奥義】 | コリント15:51

聞きなさい。私はあなたがたに奥義\*を告げましょう。私たちはみな眠るわけではありませんが、みな変えられます\*。

\*教会時代に初めて告げられた神の計画

\*肉体の死を迎えることなく、**携挙**によって、  
天の復活の体に変えられる人がいる。

➔いずれにせよ信者は皆、復活する!!



## 【携拳の瞬間に】 | コリント15:52

終わりのラッパ\*とともに、たちまち、一瞬のうちに換えられます。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないもの\*によみがえり、私たちは換えられるのです。

\*再臨のメシアを示す秋の例祭の始まりが、

「ラッパの祭り(レビ記23:24)」

→その後、大患難時代を示す贖罪日、

千年王国を示す仮庵の祭りへと続く。

\*携拳の瞬間、復活の体に変えられる!!



★図で見る黙示録★

【パラダイス】



【天上の礼拝】

4章



【新天新地】

21～22章5節

キリストの再臨



【千年王国】

20章4～25節

白い御座の裁き



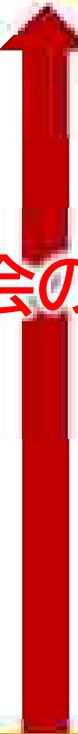
ゲヘナ(地獄)



【シエオール(陰府)】



教会の携挙



聖霊降臨



【教会時代】

2～3章

【大患難時代】

5～20章3節



## 【勝利の復活】 Ⅰコリント15:53～54

この朽ちるべきものが、朽ちないものを必ず着ることになり、この死ぬべきものが、死なないものを必ず着ることになるからです。

そして、この朽ちるべきものが朽ちないものを着て、この死ぬべきものが死なないものを着るとき、このように記されたみことばが実現します。「死は勝利に呑み込まれた\*。」

\*神の国の実現の預言(イザヤ25:8)

➡復活の体は、死ぬことのない永遠の体。



## 【死への勝利】 | コリント15:55～56

「死よ、おまえの勝利はどこにあるのか。  
死よ、おまえのとげはどこにあるのか。」

死のとげは罪であり、**罪の力は律法\***です。

「わたしはよみの力から彼らを贖い出し、死から彼らを贖う。死よ、おまえのとげはどこにあるのか。ホセア13:14」

**\*律法は人に罪の現実を徹底的に突きつけ、絶望させ、メシアの救いを求めさせる。**



## 【神への感謝】 1 コリント15:57~58

しかし、神に感謝します。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。

■ 私たちの罪を負い、十字架で死んだメシアは、死を打ち破って復活された。

福音を信じる者に、復活の体を約束された。

■ メシアが復活し、死に勝利されたように、福音を信じた私たちも、死に勝利している!!



## 【主のわざに励みなさい】 | コリント15:58

ですから、私の愛する兄弟たち。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざ\*に励みなさい。あなたがたは、自分たちの労苦が主にあって無駄でないことを知っているのですから。

\*イエスの弟子・証人としての福音宣教の使命

■ 律法は、罪を突きつけ絶望に人を導くが、律法が示すメシアに信頼する者には、復活の体、永遠の祝福が約束されている。

**復活の約束ゆえ、信者の労苦は無駄でない!!**





#### IV. まとめと適用

復活の希望を抱きつつ歩もう

## コリント人への手紙が私たちに突きつけること

- 異邦人信者が多数のコリント教会の問題は、**基本的教理**からの逸脱。
- コリント書でパウロが繰り返し確認しているのは**初歩の教え**。  
パウロは、この手紙で何一つ難しいことは語っていない。  
→ その極みが、救いの大原則、三要素からなる**福音**。
- コリント書を巡る、恣意的で逸脱した数々の解釈がある。  
→ コリントの教会を笑えない、まったく話にならない私たちの現状が。
- 私がパウロの話を生で聴いたら、眠りこけて窓から落ちるのでは？

## 福音の三要素・聖化の過程で何より重要な「復活」

- “主イエス・キリストは、私の罪のために十字架にかけられ、死んで葬られ、死を打ち破って復活された”
  - ➔この手紙の議論の最後に、最も大切な**福音**を確認したパウロ。
- 15章では特に、**復活の希望**について強調して記している。  
福音を信じて神に義と認められ**(義認)**、救われたクリスチャンが、  
信仰の成長**(聖化)**の過程を着実に歩むため、必須なのが**復活の希望**。
- 復活の体を与えられた時、信仰は私たちの完成**(栄化)**される。

## 復活というゴールを目指して今を歩もう

- 福音を信じた瞬間、新生し、御国の相続人として永遠が約束された。
- この世の現実では、私たちは朽ちる体を抱え、死んでいる。過ちも罪も犯す。たやすく主の道を外れてしまう。
- しかし、時を超越した神の目に移るのは、**栄化された私たちの姿**。神の国の相続人には、必ず、**神の国の復活の体**が与えられる。
- 人生という競技に力を尽くせるのは、**確かなゴール**があるからこそ。**復活の希望**を抱いてこそ、信仰者の使命に生きることができる。

## すべての聖書の啓示が示す究極のゴール・新天新地

- ある時、すべての真の信者は、主イエスのもとに携挙され、その瞬間、すでに召された者たちと共に**栄光の体**に復活する。
- 続いて世が突入する大患難時代の最後に、主イエスは、天の**復活**した信者たちを連れて、栄光の王として地上に再臨され、千年間統治される。
- 白い御座の裁きで、すべての悪と罪人は裁かれ、死も滅ぼされる。神の栄光がすべてを照らし、包み込む、全く新しくされた世界で、すべての信者は**復活の体**をもって、永遠の平安を生きる。

聖書が示す世界と歴史の究極のゴール・新天新地

黙示録21章1～4節

## 黙示録21章1～2節

また私は、新しい天と新しい地を見た。  
以前の天と以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。

私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、  
夫のために飾られた花嫁のように整えられて、  
神のみもとから、天から降って来るのを見た。

## 黙示録21章3～4節

私はまた、大きな声が御座から出て、こう言うのを聞いた。

「見よ、神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。

神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。

神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。

もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しきもない。

以前のものが過ぎ去ったからである。」

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの<sup>つみ あがな</sup>罪を<sup>じゅうじか</sup>贖うために十字架で<sup>し</sup>死に、

②墓に<sup>はか ほうむ</sup>葬られ、

③三日目に<sup>みっかめ ふっかつ</sup>復活した<sup>しん</sup>こと、を信じます。

<sup>ふっかつ はつほ</sup>復活の初穂である<sup>しゅ</sup>主に<sup>ふっかつ</sup>続き、<sup>あた</sup>私たちも必ず復活の体を与えられます。

<sup>なみだ</sup>涙はぬぐわれ、<sup>し</sup>死も、<sup>かな</sup>悲しみも、<sup>くる</sup>苦しみ、<sup>さけ</sup>叫びもありません。

<sup>ふっかつ かくしん</sup>復活を<sup>ちから</sup>確信させ、<sup>きぼう</sup>生きた力、ゆるがぬ希望としてください。

<sup>よ</sup>世になにがあろうとも、<sup>ふくいんせんきょう しめい</sup>福音宣教の使命のため、

<sup>へいあん うち</sup>平安の内に<sup>つかわ</sup>私を遣わしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」